

人・街・ながた 震災資料室ニュース

2008. 6. 17

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

「聞き取り調査」OBへ移る

自治労長野への調査も企画

“聞き取り版”『人・街・ながた1995, 1, 17』は当該職員の協力を得て20人を超える方を終えることができた。今後はテープ起こしと校正の作業に入る。また当時重要な役割を果たされたOBの皆さんへの“聞き取り”へ移る。

震災体験を貴重な糧に

“聞き取り”をした職員の全員は「17日の状況は生涯忘れることができない」と語っている。そして混乱の中での初動期72時間は自分の判断で自主的に対応しており、人手不足を指摘している。苦労したのは「公平性」と「個別事情」への対応だった。また、自身の健康状態では「気」が勝っている状態であった。

今後、年明けには中間報告ができる予定だ。

今夏に長野県へ調査

神戸市長の要請で2万人を超えるボランティアを派遣してくれた自治労の資料を分析・研究をしてきたが、今度104人が派遣された長野県本部の活動に焦点を当てて研究することになった。

長野県本部は真陽小学校の避難所運営や、り災証明等の区役所業務を担当された。

近々、調査についての企画書を作成し現地調査に入る。

戦災ウォークに参加

6月8日、湊川神社を午前10時に戦跡ウォーク（主催、神戸空襲を記録する会）が始まった。

先の太平洋戦争で神戸もB29により空襲が繰返されている。中でも、6月5日の空襲は神戸の東半分が炎に包まれたという。3月17日の空襲と併せて7千人余の方が亡くなられている。

曇天から始まったウォークは、新開地、旧西国街道そして兵庫津の道に沿って語り部の方から当時の空襲の様子を聞く。戦跡のコースは同時に歴史の道となっている。田辺真人さんが神戸の歴史を紐といていく。わかりやすく、往時が手に取るようである。参加者は聞きのがさないよう熱心に聞いている。

昼すぎに最後の薬仙寺が近づく、記録する会の代表者である中田政子さんは大輪田橋でお母さんのお腹にいるときに空襲をうけ、お姉さんを亡くしている。最後に中田さんは「戦跡ウォークは今年で10年を迎えます。今日は高校生、大学生の方たち若い人が参加されました。これからも続けていく勇気をもらいました。」

来年の再会と一人でも多くの人の参加を呼びかけました。

合掌



西 国 街 道 の 街 ・ 大 道 通

4 回の国勢調査を比較して⑰

京都を起点として桂川を渡り、淀川北岸の高槻・茨木』を通り、西宮から西へ伸びる西国街道。兵庫の街へは番所が置かれていた湊口惣門を通り、

山陽電車の軌道があった兵庫駅～長田駅～西代駅へと続いていく。

長田駅（現・高速長田駅）すぐ西側の大道通の「大道」は西国街道のことであり、古代には街道は大路、中路、小路に分けられていたが、「大路」であった。この街道を挟んで大道通が新湊川側から西へ5丁広がる。



(写真是新湊川橋から)

人口動態を見てみよう。

これまで報告してきた各町との大きな違いは、見事なV字曲線を描いていることである。1965（昭和40）年当時には943人いたが、道路拡張や軌道の地下化などで減少傾向が続き、更に震災で半減したが、2倍以上の増加となっている。道幅50mの道路を歩くと、10階建の復興住宅が2棟、5階建が

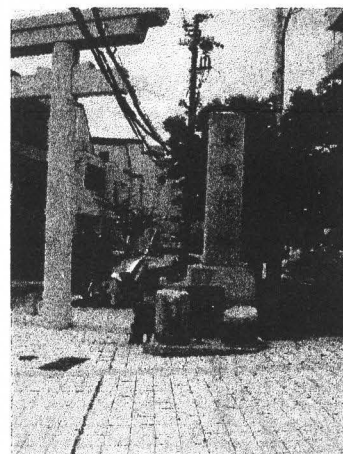
	1965 年	1975 年	1985 年	1990 年	1995 年	2000 年	2005 年	05 90
世帯数	239	202	162	170	87	273	325	1.91
人口	923	641	429	404	218	505	565	1.40
男	442	314	197	188	115	217	252	1.34
女	481	327	232	216	103	288	313	1.45
区人口	214,345	185,974	148,590	136,884	96,807	105,464	103,771	0.76

1棟あり、民間のマンションが9階建と12階建がある。これらが増加の原因である。

被災状況はどうだろう。

全棟数181棟があるが、全壊・全焼で70%程を占めるが、火災は1～3丁目のそれぞれで発生したが、3丁目は昼過ぎで吹田・豊中消防が新湊川をせき止めて取水し延焼を阻止し、鎮火したと記録にある。もともと道路の北側は木造住宅が密集していたため、倒壊し瓦・モルタルが

はがれ燃焼しやすい状態であった。
小字の「鳥居前」には震災で倒壊した石鳥居跡が記念碑として建てられている。



人・街・ながた震災資料室では、阪神淡路大震災に関する資料を集めています。ご協力をお願いします。寄贈いただいた資料は保存し、公開させていただくことがあります。